

業の最先端の場所から沢に入り、10:40遡行開始。きれいな水が流れているが、沢そのものは平凡である。伐採地より下流部では何カ所かで見られたナメも、1カ所申し訳程度に出てきただけ。滝も終了間際になって、1mの小さなものが見られただけであった。11:20遡行終了とする。(記)

[タイム] 出合(10:40)→遡行終了(11:20)

天王川(梓川)左支沢

1990年10月14日

L

林道終点に車を止め、沢ぞいに続く山仕事道を利用しながら、進む。沢には何もない。地図上の道は、途中から嶺を越え登っているが、実際には沢にそって奥まで続いている。道が不明瞭になってからは沢の中を進むが、トゲトゲのヤブがひどくて進めない。源頭の樹林帯も間近となった所で、遡行終了とする。

(記)

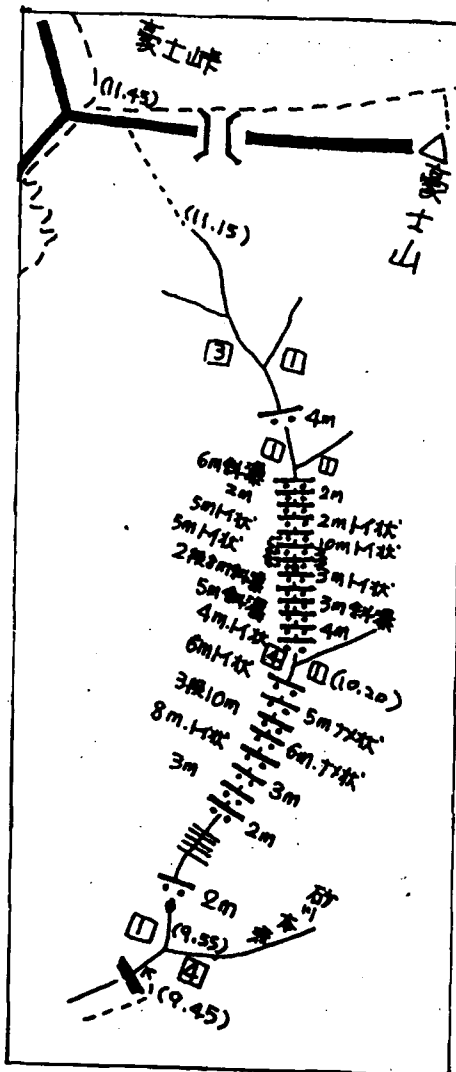
[タイム] 林道終点(9:35)→遡行終了(10:55)

砂川左俣

1990年9月16日

L

中和田集落から川ぞいの林道を進み、砂防ダム手前の橋のたもとに車をデポする。川ぞいの林道をなおも進み、砂防ダムの所から入渓する。今回は豪士山に登る手段としての沢登りなので、最短の左俣をつめる。



出合での水量比は1:4。この砂川左俣は、水量こそ少ないが、小滝が連続して現われる。砂岩質で滑りにくい、もろいようだ。トイ状の10m滝は右岸を捲くが、岩がもろいうえ浮いているので苦勞する。

やがて水も濁れてヤブに入る。登るに従い、ヤブは濃くなるが、30分程で豪士峠付近の小ピークに出る。ここには1本松が立っていた。このあと豪士山の北面の山道めざしてヤブをこぎ、あとは踏跡をたどって豪士山の山頂に立つ。帰路は豪士峠から中和田への踏跡を下った。(記・)

[タイム] 遡行開始(9:45)→二俣(9:55)→稜線(11:45)→豪士山(12:15)

吾妻山の沢

関根不動沢(仮称)

1990年9月22日

林道と関根不動沢(仮称)の出合から遡行開始。出合は極めて貧弱である。出合のすぐ上流で農業用水の取水が行われていることもあって、水はほとんど流れていない。農業用水の取水口から上流は、きれいな水が流れている。

出合から5分も遡ると小僧ヶ滝に出る。小僧ヶ滝は3段からなる滝で、最上段は下からは見えない。1段目と2段目の間に不動明王像が置かれ、2段目右岸の岩窟状部分に不動明王を祀る祠が置かれている。祠へは右岸から傾場を伝って踏跡が続いているが、今日はこの滝を登ってみることにした。まず1段目。ここはナメ状でフリクションをきかせて簡単に登れる。2段目は左岸から取り付き、途中で右岸にトラバースして滑りやすい半草付を不動明王の祠の前にぬけ、そこから側壁下部をトラバース状に進んで2段

